

超薄型デジタルスチールカメラ

的場成浩* 宮田彰久***
久野徹也** 上田俊史***
山下孝一**

要 旨

デジタルスチールカメラの市場は、ここ数年で急激に立ち上がってきた。これは、CCD(Charge-Coupled Device)等の撮像素子を始めとする各種半導体技術の向上及びパソコンの飛躍的な性能向上により、容易に画像をデジタル化して取り込み、加工編集を行える環境が整ってきたことが大きな要因である。

デジタルスチールカメラの登場は、従来の銀塩写真のようなハードコピー市場に対抗した新しいソフトコピーの市場を築き、さらには、パソコンを核としたビデオコンファレンス等の応用分野展開の期待も担っている。このような背景の下に、電機メーカー、カメラメーカー、アミュー

ズメントメーカー等の各種メーカーがこぞって参入を図った結果、現状では互いに差別化を明確にするのが困難な状況となりつつある。最近のデジタルスチールカメラの大きなトレンドは、高機能化・高解像度化である。しかし、価格・サイズ・消費電力等の課題をクリアするのは難しく、幅広い層のユーザーに普及させるまでには至っていない。

そこで三菱電機は、視点を変えて、価格・サイズ・消費電力を抑えることを優先にしたデジタルスチールカメラの開発に取り組んだ。ここでは、デジタルスチールカメラの小型化実現に向けた技術開発について述べる。



超薄型デジタルスチールカメラの外観

コンパクトで薄く、胸ポケットに違和感なく入るカメラをコンセプトに開発を行った。特にデザインと製品厚みに重点を置き、厚みは19.8mmを実現した。デザインも薄く見えることに重点を置き、コンセプトを凹凸のないシンプルかつ高級感のある形状とした。